

# 外来種の影響

本来はその地域にいない生きものが侵入することで、様々な問題が生じています。

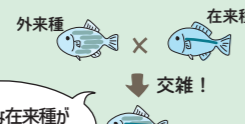
## 生態系への影響

生態系バランスの崩れ



水草が無くなり、生きものが暮らにくい池に…

近縁種の交雑



純粋な在来種がいなくなってしまう…

「在来種」：もともとその地域に分布していた生きもの

外来種による捕食



その他にも在来種との競合等々

## 農林水産業への影響

食害



アカミミガメのハス(レンコン)食害

茎食べちゃう!

耕作障害

オオバナミズキンバイの水田への侵入



田畑を荒らす

ハクビシン、アライグマなど

## 人、健康への影響

刺される、噛まれる



刺すよ!

ヒアリ

病気の媒介



アライグマと回虫症

こんな被害も!

アライグマによる文化財被害



神社や寺の屋根裏などに侵入して住み着くことがあり、歴史的建造物や文化財の破損、糞尿による被害が大きな問題となっています。

◀ アライグマの屋根裏への侵入痕跡

クビアカツヤカミキリのサクラ食害による観光被害

サクラやウメ、モモなどのバラ科の樹木に寄生する外来種で、幼虫が樹木を内部から食害し、木を枯らしてしまいます。繁殖力が強く、桜並木を枯らしてしまうなど観光業へも被害が発生しています。



© (地球)大阪府立環境農林水産総合研究所



＼ 私たちにできること /

# 外来種被害予防3原則

1 悪影響を及ぼすかもしれない外来種を

## 入れない!

外来種を入れなければ、被害が起きることはありません。「入れない」ことがまず第一に大切です。

ペットとして飼っている生きものは、最後まで飼う責任があります。

2 飼っている外来種を野外に

## すてない

(逃がさない、放さない)

3 野外にすでにいる外来種を他の地域に

## 拡げない!

(増やさない)

新たな被害を生まないためにも、まだ定着していない地域に拡げないことが重要です。

外来種や具体的な対策についてもっと知りたい方はこちらから

京都府の外来生物対策  
(京都府 自然環境保全課)  
<https://www.pref.kyoto.jp/gairai/>



日本の外来種対策  
(環境省)  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>



お問合せ

京都府 自然環境保全課

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

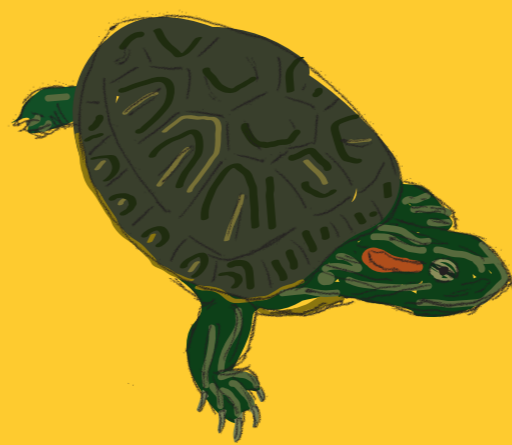
Tel/Fax 075-414-4706 / 075-414-4705

E-Mail shizen-kankyo@pref.kyoto.lg.jp



発行 京都府 (2024年3月発行)

制作 きょうと生物多様性センター



## 外来種って何?

# きょうとの外来種ハンドブック

## どんなことが起きているの?



# 外来種って何?

外来種とは、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもののことを指します。

日本の野外に生息する外国起源の外来種はわかっているだけでも約2000種にもなります。明治時代以降、人や物の動きが活発になり、多くの動物や植物が輸入されてきました。外来種の中には、農産物や家畜、ペットなど、私たちの暮らしに欠かせない生きものがある一方、自然環境に大きな影響をもたらしている生きものもいます。海外から日本に持ち込まれた生きもの(国外由来の外来種)だけでなく、日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた生きものも外来種です(国内由来の外来種)。

## 特定外来生物

特定外来生物は、外来生物法という法律に基づいて、取扱が厳しく規制されている外来種です。生態系等に深刻な被害を及ぼす、またはその危険性が大きい外来生物の中から指定されます。

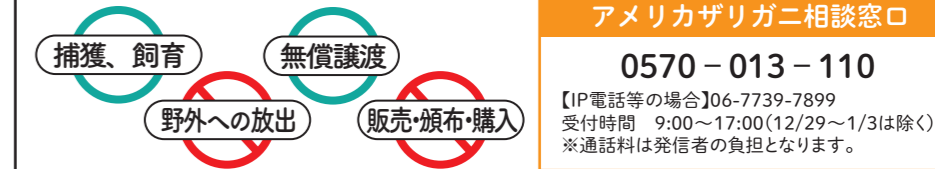
<規制の内容>



## 条件付特定外来生物

特定外来生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当面の間、適用除外とする生物の通称です。適用除外とする規制の内容は、それぞれの種ごとに政令で指定されます。令和6年2月時点で、「条件付特定外来生物」に指定される種はアカミミガメとアメリカザリガニのみです。

<アカミミガメ、アメリカザリガニの規制内容>



2023年6月から規制開始!

アカミミガメ、アメリカザリガニ相談窓口

0570-013-110

【IP電話等の場合】06-7739-7899  
受付時間 9:00~17:00(12/29~1/3は除く)  
※通話料は発信者の負担となります。

条件付 条件付特定外来生物

オオキンケイギク **A**



**影響** ・在来植物を駆逐する  
・景観を変えてしまう

**生息地** 路傍、河川敷、線路際、海岸など

5～7月にコスモスに似た黄色い花をつける。綺麗な花のため、庭先などで刈らずに残されていることもあるが、栽培禁止であり注意が必要。

クビアカツヤカミキリ **C**



**影響** ・街路樹、公園の桜などを枯らす  
・果樹園でウメなどを食害し枯らす

**生息地** サクラなどの街路樹、ウメ・モモ園など

サクラ、ウメ、モモなどに寄生。幼虫が樹木を内部から食い荒らし、木を枯らしてしまう。桜並木がなくなるなど観光業にも被害が及んでいる。

オオハンゴンソウ **A**

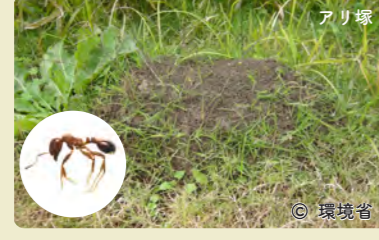


**影響** ・在来植物を押しよけ、辺り一面に広がる

**生息地** 路傍、荒地、畑地、湿原、河川敷など

7～10月に黄色い花を咲かせるキク科の多年草。冷涼な環境を好み、主に山間部に分布する。京都では、花脊などで防除活動が行われている。

ヒアリ **D**

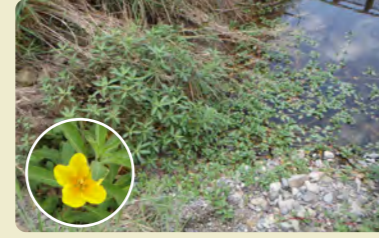


**影響** ・在来アリを駆逐するなど生態系被害  
・人やペットへの健康被害  
・電気基盤に巣をつくりショートさせる

**生息地** 日当たりの良い開放的な場所

大きなアリ塚を作り、一旦繁殖すると根絶が困難。刺されると強い痛みが生じ、体質等によっては強いアレルギー反応を起こすおそれがある。

オオバナミズキンバイ **B**



**影響** ・在来植物との競合  
・漁具の破損や水路の通水障害  
・水田への侵入による耕作障害

**生息地** 川や池、用水路、水田などにも侵入

6～10月頃に黄色い花を咲かせる。水辺を中心に生育するが、陸上にも適応し、茎や根の切れ端からでも再生するほどの驚異的な繁殖力を持つ。

アルゼンチンアリ **E**



**影響** ・在来アリを駆逐するなど生態系被害  
・家屋に侵入し、大量発生する  
・農業害虫

**生息地** 家屋、プランターの下、コンクリートの割れ目など

体長約2.5mm。大規模なコロニーをつくるアリで、家屋によく侵入する。家の中を大量のアリが行き来することで精神的な苦痛を抱える方も多し。

そのサイン、もしかしたら侵略のサインかも。

注意が必要な外来種のサイン

外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを、特に“侵略的外来種”といいます。外来種も、本来の生息地ではごく普通の生きものとして生活していた種ですが、持ち込まれた場所の条件によって重大な問題を引き起こす可能性があります。被害が拡大する前に、早めの発見、対処が重要です。



オオクチバス・コクチバス **F**



**影響** ・在来の淡水魚などの捕食  
・生態系への影響（群集構造の変化など）  
・アユやフナを捕食することによる漁業被害

**生息地** 川や池、湖

釣り目的で各地で意図的な放流が行われてきたことが指摘されている。深泥池では、本種が放流された1985年以降、在来種の半数が絶滅した。

ヌートリア **J**

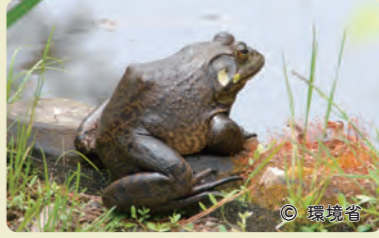


**影響** ・農作物の食害  
・巣穴による堤防や畔の破壊  
・貝の食害によるタナゴ類への影響

**生息地** 水辺に巣穴をほり、繁殖

大型のネズミの仲間、毛皮の採取に利用するために日本に持ち込まれた。餌やりによりその場所に定着し、爆発的に増える。

ウシガエル **G**



**影響** ・トノサマガエルやダルマガエルとの競合  
・捕食による生態系への影響

**生息地** 川や水路、水田、池など水辺の近く

食欲で捕食性が強く、口に入るものであれば、魚、昆虫、鳥、小型の哺乳類までなんでも食べる。「ウォー」という、牛に似た太い鳴き声を出す。

カダヤシ **K**



**影響** ・小型の魚類との競合  
・稚魚の捕食  
・農業被害（特にメダカへの影響が大きい）

**生息地** 水田や用水路、池沼、川の緩やかな水域など

ボウフラの駆除目的に放流するために国内に導入された。メダカと生息地が重複し、特に池や沼などの水域ではメダカを絶滅させる。

アメリカザリガニ **H**



**影響** ・在来の水生生物などの捕食  
・水草を食べ、他の生きものの生息場所を奪う。

**生息地** 川や水路、池など水があればどこでも

北米原産で、1927年に日本に持ち込まれて以来、日本各地に分布を拡大している。雑食性で、水草から動物の死体まで何でも食べる。

アカミミガメ **L**



**影響** ・在来のカメ類との競合  
・水生生物への影響  
・農業被害（レンコン畑での食害など）

**生息地** 特に都市部の水辺

ペットとして飼育されていた個体が野外に放たれることなどにより、全国に分布。幼体はミドリガメという別名でも呼ばれる。